

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「ファミリーマート×島根の女子高生の共同開発スイーツ」
- 2) 「野菜を無料でもらえるサイト”タダヤサイドットコム”」
- 3) 「ゼンリンの無料情報誌」
- 4) 「工事現場に広がる動物型バリケード」

1) 「ファミリーマート×島根の女子高生の共同開発スイーツ」

ファミリーマートは2月11日から、島根県立出雲商業高校の経済調査部の女子生徒と共同開発した「ぜんざい風シュークリーム」とぜんざい風ミルクプリン」を沖縄県以外の地域で発売する。

地域の高校生との共同開発商品をエリアフランチャイジーを含む全国展開をするのは、ファミリーマートとして初の試み。

2月11日には、東京都渋谷区の「道玄坂中央店」と新宿区の「新宿靖国通り店」で出雲商業高校の生徒による店頭販売も実施した。

2009年に島根県とファミリーマートが包括協定を結んだことをきっかけに、2009年6月から「ぜんざい」をテーマに商品開発に着手。

2月10日には、島根県内で島根県商工労働部、出雲商業高校、ファミリーマート、生徒らによる商品発表記者会見も実施した。

素材・盛り付けに女子高生のアイデアを取り入れ、メーカー、ファミリーマートの商品開発担当者、商業高校の生徒らによる試作を繰り返し、約7ヵ月かけて商品を開発。

2010年2月に中国・四国地区の約600店で販売、好調な売れ行きのため、同年6月に関東地区を加えた3600店舗で販売を実施し、今回の全国販売に至った。「販売実績が伴う商品であれば、今後も地域限定商品を全国展開したい」（同社）という。

出雲はぜんざい発祥の地という説もあり、ぜんざいはローマ字でZEN ZAI、読み替えるとZ「縁」とZ「愛」となり、究極の縁と永遠の愛を意味すると生徒が解釈。この意味合いをミルクプリンのハート型のホイップクリームに込めた。

商品開発だけでなく、コンセプトワークから販促やPRも体験できたことが非常に良い経験になっただろう。全国販売になったので是非食べてみたい。高校生だけでなく、料理の専門学校や食に精通する大学など共同開発先はたくさんありそうだ。

2) 「野菜を無料でもらえるサイト”タダヤサイドットコム”」

群馬県・埼玉県北部を中心とした生産農家と共に立ち上げた、野菜を無料で提供するサイト「タダヤサイドットコム」がオープンした。

オープン記念キャンペーンとして、2月13日に秋葉原にてメイドがネギ1000本を無料配布するイベントも行われた。

2月7日にオープンした「タダヤサイドットコム」によると、2月19日24時まで「富田農園の最高級絶品いちご」2パックが40名限定で無料提供される。

その後も「川田さんが育てたちぢみほうれんそう4人前（限定30名）」「福島さんが育てた深谷ねぎ2kg（限定30名）」などが無料提供される予定。

無料提供を実現している理由については「タダヤサイドットコム」は、収穫量が多すぎたり、形が悪いだけで「規格外商品」として捨てられてきた野菜をプレゼントし、産地直送野菜のおいしさを知ってもらうことや、農家のPR・地域活性化を目的としている。

そこで気に入った農家の野菜を購入することも可能にし、出張販売サービス「タダヤサイ行商サービス」も展開。生産者情報やこだわりをサイトで公開し、安全で新鮮な野菜を届ける。

自然を相手にする農業や漁業はどうしても余剰や規格外が出る場合がある。テレビやネットのニュースで余った野菜が処分される様子を年に数回目にするが、こうした対策でそれらが救われるのは望ましいことだと思う。いきすぎない程度に活動が広まることを期待したい。

3) 「ゼンリンの無料情報誌」

ゼンリンが無料の地域情報誌「Actiz mi-ru-to（アクティズみると）」の箕面市版を発行した。同社が作製した市内の詳細な地図と公共施設のリスト、おすすめの店などの生活情報を掲載し、約1ヵ月かけて市内の全世帯（約5万4千世帯）に配布するという。

同社は昨年7月から神戸市東灘区やさいたま市浦和区などで同様の無料情報誌の配布を開始。府内では箕面市が初めてで、今年3月には大阪市北区でも配布を始める。情報誌の内容はインターネットのサイト（<http://www.actiz.jp/>）でパソコンや携帯電話、電子書籍でも読める。情報誌はA4判で80ページ。箕面公園周辺の見どころや店舗などを特集し、阪急箕面駅周辺では駐車場の入り口や郵便ポストなど独自調査した詳細な情報を収録している。

アクティズみるとでは、地域を絞る事でより詳しい地図情報になっており、その地域で普段生活している住民等にはとてもありがたいサービスに感じる。

住んでいても気付かなかったお店等を再発見出来て面白そうだ。ある物を「従来の目的以外で使えないか」、という“?”が形になった商品。普段から一定方向だけでなく様々な角度から物を見ることが大切だということを改めて実感する。

複雑で難しいことを考えることも重要だと思うが、シンプルな疑問がアイデアにつながるということも忘れてはならない。

4) 「工事現場に広がる動物型バリケード」

かわいらしい動物をあしらった工事現場用のバリケードが全国に広がっている。殺風景な景色が一変し、道行く人を和ませている。自転車道の工事が進む奈良市中心部の国道24号。通行を規制する鉄パイプが約200メートルにわたって並び、上下のパイプをつなぐのは、

樹脂製のシカ型バリケードだ。工事を請け負う建設会社の担当者は「工事現場の危険なイメージを和らげたくて採用した。以前は沿道が渋滞するとドライバーから苦情をいただいたが、動物のお陰なのか、いまは不思議とない」。開発したのは、安全保安用品レンタル・販売業大手の仙台銘板。同社の旭川営業所が、観光客に大人気の旭山動物園に触発され、2006年にサル型を作ったのが始まりだ。1台につき動物が2個ついており、1台の長さは約4メートル。今ではカエル、ゾウ、キリンも加わり、同社の工事用レンタルバリケード約37万台のうち、4割強の約16万台を占める。今後、イルカや沖縄の魔よけ「シーサー」の導入も予定している。

「ご当地動物」も登場。同社の神戸営業所が地元の国土交通省関係者から「コウノトリをうまく宣伝できない？」と持ちかけられ、昨年1月に導入した。現在、約30社に1500台貸し出している。動物型バリケードのレンタル料は、1台1日で約15円。通常より2-3割高めというが、全国の土木・建設会社から引っ張りだこだ。人気の背景には、公共工事の激減で、何としても入札で工事を落としたいという業者の思惑もあるようだ。入札価格と価格以外の要素を総合的に評価して落札者を決める総合評価方式では、工事現場のイメージアップ対策も評価点に盛り込まれることがあるという。動物型バリケードのレンタル会社は、全国に数社あるとみられる。約3年前からカエルとタヌキを作っている福岡市の会社担当者は「建設会社から大好評で、西日本を中心に1万台以上を貸し出している」という。

工事による規制はイライラの原因の一つだが、こうした小さな工夫一つで心を和ませられるのだからたいした物だと思う。最近では建物工事の仮囲いも様々なデザインで演出されているが、工事中も驚きや発見や楽しさを提供できれば、その道路や建物は人々の印象に残りやすくなるのではないかな。